

< 気になるよそ様の数値 2年後の今 >

今回は健全性の指標です。図1は自己資本対固定資産比率(X10)の分布図、図2は長期固定適合比率(X11)の分布図、図3は付加価値対固定資産比率(X12)の分布図です。2000年11月のデータは195,842社で2002年9月のデータは218,005社でデータ数が違うので、分布図は全体に占める割合で表しています。

健全性の指標の特徴は、長期固定適合比率(X11)の山が100%近くにあり、固定資産 = 自己資本 + 固定負債という意識で経営している企業経営者が多いことにあります。また、付加価値対固定資産比率(X12)では下限が一番多く、非常に厳しい指標になっています。

まず、健全性の指標につき平均点の推移を見てみると下欄のようになっています。

	2000年11月	2002年9月	2003年4月
自己資本対固定資産比率(X10)	132.917%	135.074%	136.902%
長期固定適合比率(X11)	246.183%	250.100%	251.085%
付加価値対固定資産比率(X12)	381.683%	390.716%	390.846%

平均値を見る限りでは点数がよくなっています。この間の景気動向を考えれば、自己資本、付加価値が伸びているとは考えづらいので、固定資産の圧縮が進んでいると推察されます。

しかし分布図を見ると、もう少し違った姿が現れています。この指標も二極化現象がはっきり出ています。まず、下限値の企業数の割合は、X10では7.51%から9.30%に、X11は6.25%から7.42%に、X12は14.31%から15.97%にそれぞれ増加しています。また、自己資本がマイナスの企業数の割合も増えています。X10、X11とも山の左側の企業が増えているのです。

ただ上限値の企業数の割合を見たところ、こちらも増えていることがわかります。X10では7.62%から8.87%に、X11は7.57%から8.72%に、X12は5.65%から6.64%になっています。このように、経済環境が低迷し脱落していく企業も多い中で、変化に対応して高得点を維持している企業もあるのです。

国土交通省は、固定資産投資に厳しい態度で臨んでいます。固定資産に対する対応は、企業経営者の経営スタンスがはっきり表れる部分です。利益も大切ですが、固定資産投資に対するスタンスももう一度確認してみたいかがですか。

WISENET編集部 松村 清(税理士)

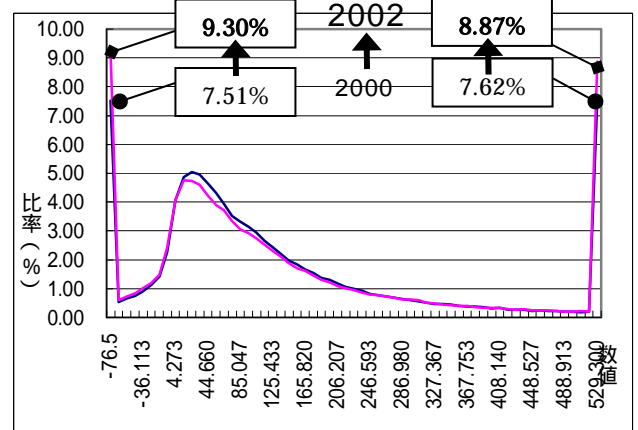


図1 自己資本対固定資産比率(X10)

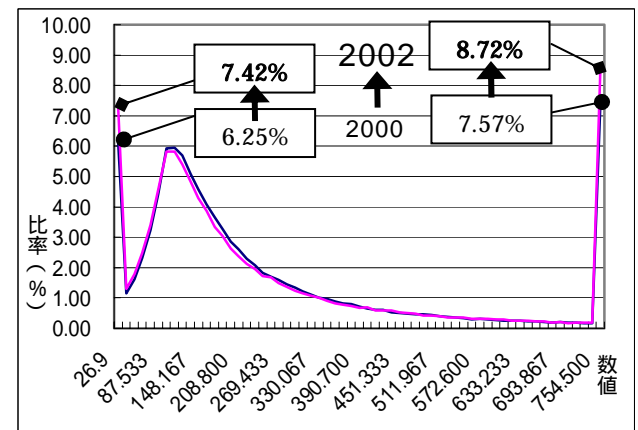


図2 長期固定適合比率(X11)

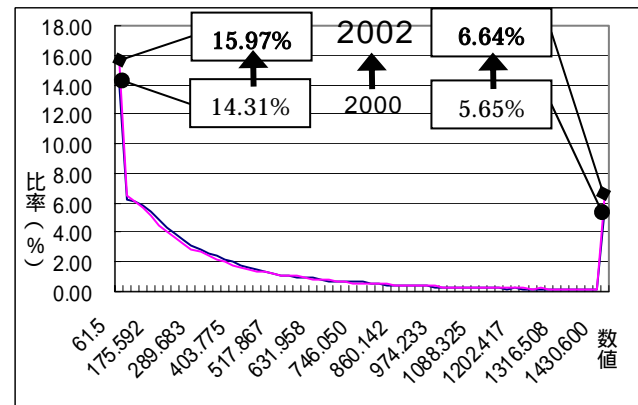


図3 付加価値対固定資産比率(X12)

分布図については、ワイズホームページよりダウンロードできます。 <http://www.wise.co.jp/>

今月のひとくち **MEMO** 「Wisdom2003 点数アップシミュレーションシステム」では、固定資産の圧縮、取得、売却などの各種シミュレーションが素早く行えます。何通りものシミュレーションし直しは不要です。

いよいよ 2003年10月1日申請分よりX1評点線形式化が適用されます。Wisdomならすぐに算出可能です。お急ぎの方は、即日発送も可能ですのでお申し付け下さい。

Wisdom 訪問デモ希望(無償)
 Wisdom 資料請求(無償)
 送信先宛名変更(右欄に変更後の宛名をご記入ください)
 今後「Wise FAXNET」送信不要
 今後「Wise FAXNET」メール送信に変更希望

資料・デモをご希望の方は、下記にご連絡先をご記入下さい。ユーザー様で前登録時と変更のない場合には、貴社名と担当者名、TELのみをご記入下さい。

貴社名	
ご担当者様	ご役職・部署名
TEL	FAX

今後メールでの送信をご希望される場合は下記にアドレスをご記入ください。

e-mail

デモ希望、資料請求、送信先宛名変更、送信停止は、必要事項をご記入の上、FAXにて当社までご返送下さい。

FAX.0269-65-4745